

言葉の大切さ

小 四

ように人の心をきずつけてしまうおそろしい顔です。

ぼくには、大切な友達がたくさんいます。また、友達に対して「思いやり」のあるやさしい人になりたいと思っています。人にやさしくして、みんなから「やさしいね。」と言われる人になりたいです。でも、ぼくは短気なので大切な友達に言っただけない言葉を使い、けんかになるときがあります。そんなときは、いつもこうかいしてしまいます。

言葉には二つの顔があると思います。人をはげまして、元気にする薬のような顔と、使い方をまちがえると、矢の

ぼくは、サッカーのスポーツ少年団に入っています。サッカーは、チームワークが必要です。「がんばるぞ。」「ドンマイ。」「よくやった。」というかけ声でみんなとコミュニケーションを取っています。味方を思いやり、信用していれば元気薬がきいて、いいパスができたり、味方を守ったり、いいシュートができたりします。だから、試合に勝つこともできるのです。ぎやくに、味方が失敗をしたときに、「バカ」「くず」「ドジ」「まぬけ」と、人をせめて、きたない言葉を使うと、矢をつきさすように人の心をきずつけてしまいます。言葉の使い方をまちがえるとコミュニ

ケーションが取れなくなり、試合に負
けます。

ぼくは、今年の春、言葉の力を体験
しました。トーナメント戦の試合があ
りました。負けることが多いチームで
したが、その日は、みんな元気がよく
て、テンションが高く感じられました。

試合が始まりました。みんなで声を
かけたり、おたがいにカバーし合った
りました。一試合目は勝ちました。

勝てたのは、だれかが失敗しても、
「ドンマイ、点を取り返そう。」

と、おたがいにはげまし合えたからで
す。その調子で二試合目は引き分け。
グループ最後の試合は、もっともっと
声をかけるようになり、だれ一人きた
ない言葉を使う人がいなくなり、グ

ループパート一位でじゅんじゅん決勝
に進みました。みんなが一人一人を思
いやりながらがんばった結果だと思い
ます。さんねんながら、その先には進
めませんでした。なんと二十四チー
ム中、五位でした。チームにとって
はいきよです。これは、みんなのかけ
声と言葉のはげまし合いがあったから
です。言葉の力のすごさを感じました。

時々、新聞やテレビニュースで、自
殺の問題がほうどうされているのを聞
きます。中には、学校のいじめがげん
いんになっているものもあります。福
島県原発事故のえいきょうでひなん
した中学生が、言葉によるいじめがげ
んいんで学校に行くのがいやになった
そうです。その中学生はいやな言葉を

言われてすごく悲しくて、学校に行きたくなくなってしまうのだと思います。ぼくは、ぼう力には、言葉のぼう力と体をきずつけるぼう力があると思います。だから、相手の気持ちを考えずに、みんなでよってたかっけきずつける言葉を言うのもぼう力です。サッカーで失敗した友達がいても、しつこく言うと言葉のぼう力になって人をきずつけてしまうから、やさしく、

「ドンマイ、だいじょうぶ、気にするなよ。次、がんばろう。」

と言いたいです。

ぼくはみんなに言葉の元気薬をあげたいです。